



8月のコラム ～ Paris オリンピックによせて～

パリオリンピックが開幕しました。歴史的建造物を背景にしたセーヌ川のパレードや数々のパフォーマンスは、華やかで自由で「さすが芸術の都」とテレビ画面にくぎ付けになってしまいました。

東京五輪の際、次々に露呈していく多くの汚職や不正、際限なく肥大していく費用、環境破壊、ボランティア搾取などのマイナス要素があまりに大きく、また選手の「日本のために・・・」みたいな発言がちょっと気になったりして、オリンピックは不要ではないかという考えになっていました。実際オリンピックよりワールドカップの方が盛り上がる種目もありますし、世界選手権もたくさんあるので活躍の場は、それで十分ではないかと。

でも、いざ開幕して、今現在も争っている国々も含め世界中から選手が一堂に会するというのは、やはり意味があることなのかもしれないと思い始めています。選手たちの活躍、笑顔を目にすると晴れやかな気持ちになります。普段目にする事の無い競技をたくさん知ることができるのも魅力だし、アスリートにとっては、4年に一度のオリンピックが大きな目標の一つになっていることも確かです。

2020年に改定されたオリンピック憲章には「このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などによる、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」と記されています。

今回のパリ開会式の演出は、過激だという非難も聞かれますが、ここまで表現できるという自由さに私は魅力を感じました。日本だと「こういう批判が起こるかもしれないからやめておこう」となり、絶対できないでしょう。みな異なった価値観を持っているので、何をしても批判は起こります。失敗もあるでしょう。でも、目をつぶるよりは、失敗を恐れて表現しないよりは、いったん出して議論して理解を深めていくことが大切なのだと思います。家庭でも職場でも自分以外の人と交わっている限り。

2024年8月 水田かほる